

サービス事例集

空間

学生

教員

他部署

金沢大学附属図書館中央図書館 ブックラウンジ・カフェ



角間キャンパス（北地区）
学生数 10,691名
館員数 専従12名、兼務8名
非常勤・臨時 14.7名
蔵書数 1,190,000冊
所在地 石川県金沢市角間町
TEL 076-264-5211

内容

- ・各種イベントの開催
- ・ギャラリーαでの作品等の展示
- ・「ほんとかふえ。」での飲食
- ・「ほんとか文庫」や新聞の閲覧
- ・CNN、BS等の視聴
- ・インターネットの利用

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2010年4月～
実施場所：中央図書館
担当職員数：6名

きっかけ

- 発案者：情報部（附属図書館）情報サービス課
- ・学生からの要望「グループで話し合える場所がほしい」に応えるため。
 - ・教育環境（「学士力」の要請など）の変化に対応するため。

- ・ネット環境が大きく改善されるなどの環境変化に対応するため。
- ・図書館の電算化が進み、カードケースの撤去など空間を再構築することが可能になったため。

開始にあたって

準備期間：約12ヶ月
準備の概要：改築、改装のための立案
広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、
図書館HP、プレスリリース、グッズの配布、学内
印刷物への記事掲載
費用用途：改築、改装、機器類の設置

苦労したこと・工夫したこと

ラーニングコモンズ実現のため、各部署の理解を得られるよう定義付けを行ない、動機や得られる効果を説明して折衝したこと。

始めてよかったと思うこと

- ・利用者の増加
- ・図書館を多様に利用することが可能になり、利用者のニーズに対応できること

- ・トークショー等のイベントが簡単に開催できること

今後の課題は…？

- ・利用者が多いため、さらにスペースを確保したい。
- ・学内の他の図書館に対しても設置要求があり、応える必要がある。

伝えたいこと

学生の利用を促すための工夫が必要になります。
例えば、イベントや講習会を開催する、教員にゼミやセミナーの場として提供する、など。また、学生が自由に使えるスペースであることをアピールするため、少々乱雑であっても移動された机を放置する、ホワイトボードの消し忘れを時々わざと残しておく、などが考えられます。

空間

学生

教員

他部署

関東学院大学図書館本館 アクティブ・ラーニングの空間ブラリ (飲食可能エリア設置)



学生数 5,836名
館員数 専従6名
蔵書数 771,550冊
所在地 神奈川県横浜市金沢区六浦東 1-50-1
TEL 045-786-7023

[数値：2013年5月現在]

内容

図書館内でアクティブ・ラーニングを推進するための学習環境。オープン時に学内公募で選ばれた名称「ブラリ」にはライブラリーに「ぶらっと気軽に訪れて欲しい」との願いが込められている。またラウンジにある印象的なテーブル「集まる ～アツマル～(上写真)」は学生が身近に感じる空間づくりを目指して、学内のデザインコンペティションで選ばれた学生のデザインを工房で制作したものである。

内部は目的別にスタディエリア、グループワークエリア、AVエリア、リラクセスエリア、ラウンジにゾーニングされ、多様なニーズに応じている。

各エリアにはホワイトボードが設置され、可動式のテーブルや椅子は目的や人数に応じて組合せが自由となっている。館内は無線LANが整備され、PCとネットワークプリンターが設置されている他、ノートPCとプロジェクターの貸与も行なっている。機器と資料を活用した学習活動が活発になり、授業や講習会も行なわれている。

ブラリ内は和やかな雰囲気の中で議論が弾みよう、また滞在型の利用者がリフレッシュ出来るように飲食可能となっている。飲食ルールは軽食とフタのある飲物のみ可とし、入口近くには軽食と飲料の自動販売機を備えている。飲食可エリアと飲料のみ可のエリアの区別は一目でわかるよう床の色でゾーニングしている。

展示スペースは、本の紹介など図書館からの情報発信の場としても活用している。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2011年9月～
実施場所：図書館内ホール
担当職員数：2名

きっかけ

発案者：図書館
アクティブ・ラーニングの推進と多様なニーズに応えるため。

開始にあたって

準備期間：約1年3ヶ月

準備の概要：

- ・他大学先行事例の調査・見学
- ・ラーニングcommons関連の文献収集
- ・関連セミナーへの参加
- ・教職員によるワーキンググループでの検討
- ・図書委員会内に小委員会を設置し、報告書作成
- ・図書委員会での報告・承認
- ・規程の改定
- ・飲食ルールの策定・周知
- ・施設改修に関連する部署との打ち合わせ
- ・什器、備品の複数業者による提案と選定

広報：

掲示物（館内）、チラシ（館内・館外）、放送（館内）、図書館HP、学内印刷物への記事掲載

苦労したこと・工夫したこと

- ・学生とともに作る空間、学生が身近に感じられる空間を目指し、オープン時に学生参加型企画として、名称募集とテーブルデザインコンペティションを行った。
- ・床を色分けし、「飲食可」「飲料だけ可」が一目で分るようにした。
- ・図書館職員だけで検討せず、図書委員会内にラーニングcommonsの小委員会、ワーキンググループを設置し、教員や他部署と協働した。
- ・飲食ルールについては、飲食可とすることで見込まれる効果や他大学の例などを報告書に記載し、飲食に関する規程の改定を行った。

始めてよかったと思うこと

- ・グループ学習がくつろいだ雰囲気の中で行なわれるようになったこと。
- ・ラーニングcommons内のグループ学習が活発化することで館内の他の利用者が刺激を受け図書館全体が学習の場として活性化されたこと。
- ・長時間を図書館で過ごす滞在型の利用者がリフレッシュできる場所ができたこと。
- ・図書館から情報発信できる場所ができたこと。

今後の課題は…？

- ・図書館の人的資源を活かした学習支援の拡充
- ・グループ学習を集中して行なうための場の整備

伝えたいこと

- ・ラーニングcommonsを作ること、飲食させることが目的ではなく、その場所でどのような学習をして欲しいのか、図書館ではどのような支援を行ないたいのかという基本理念を持つことが一番重要だと思います。
- ・従来の図書館の印象が強い方からは反対意見もあるかもしれませんが、図書館独断での飲食ルールの変更とならないよう検討段階より教員の意見も聞き、協力してもらえる体制を作ると良いのではないかと思います。
- ・検討段階においては、施設を整備することで予想される効果や他大学の事例、省庁の答申などを分りやすく効果的に教員、他部署の職員に伝えることで、理念を実現するためのコンセンサスや協力を広く得ることが可能となるのではないのでしょうか。



[グループワークエリア]

相模女子大学附属図書館 ラウンジ



学生数 3,482名
館員数 専従3名
蔵書数 376,000冊
所在地 神奈川県相模原市南区文京 2-1-1
TEL 042-747-9184

内容

飲み物の自動販売機を設置した飲食可能なスペース。ラウンジ内への館内資料の持込は禁止であるが、のんびりと外を見ながらご飯を食べたり、友達とのおしゃべりを楽しむことができる。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：1992年10月（開館時）～
準備期間：建築計画に約2年
実施場所：図書館内

きっかけ

発案者：附属図書館
図書館では「飲食禁止」「静かに」という制約が多いため、自由に飲食ができ、友達とのおしゃべりができる空間を提供したいと思ったことがきっかけ。

開始にあたって

準備の概要：設計・建築会社とのやり取り
費用：建築計画に伴う費用に含まれる

苦労したこと・工夫したこと

- ・20年以上前のことだが、教員から「喫煙を認めて欲しい」という要望があったこと。勿論禁煙です。

始めてよかったと思うこと

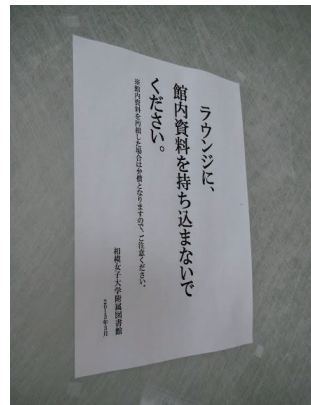
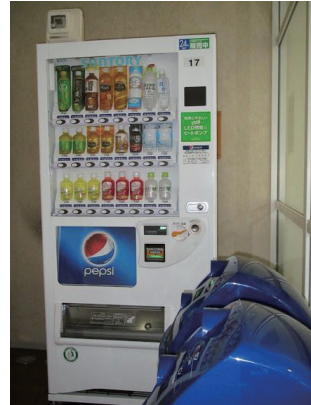
- ・友達との待ち合わせ場所に利用されるなど、人が集まる場所となり、図書館に足を運びきっかけとなったこと。
- ・一息入れたいときのリフレッシュコーナーでもあり、お弁当などを持参すれば館内で食事を取ることができるため、食事のために図書館を離れる必要がないこと。
- ・食事後すぐにまた学習に集中でき、滞在型図書館というメリットにもなること。

今後の課題は…？

- ・館内資料の持込を禁止しているが、残念なことに資料を持ち込んで読みながら食事をする学生がいる。掲示などでの呼びかけを行っているがなかなか解決に至らない点が今後の課題である。

伝えたいこと

- ・館内に飲食可能なスペースがあるということはメリットもある一方で、前述のような課題もあります。学生たちにルールを守って利用することの大切さについての啓発活動を続けていくことが大切だと思います。



空間

学生

教員

他部署

相模女子大学附属図書館

和室（閲覧室）



学生数 3,482名
館員数 専従3名
蔵書数 376,000冊
所在地 神奈川県相模原市南区文京2-1-1
TEL 042-747-9184

内容

靴を脱いで自宅にいるような感覚で学習できる12畳の和室閲覧室。座卓テーブルを設置しているため、友達同士で向かい合って読書やレポート作成、サークルでの活用も行うことができる。利用方法は閲覧席同様、空いていれば自由に利用可能。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：1992年10月（開館時）～
準備期間：建築計画に約2年
実施場所：図書館内

きっかけ

発案者：附属図書館
家庭にいるようなリラックスした感覚で過ごせる場所があると良い、という当時の館長のアイデアがきっかけ。

開始にあたって

準備の概要：設計・建築会社とのやり取り
費用：建築計画に伴う費用に含まれる

苦労したこと・工夫したこと

- ・開館当時は襖を閉め切って寝たりする学生がいたため、襖を取り外し、人の目が行き届くようにしたこと。

始めてよかったと思うこと

- ・和室利用を目的で図書館を訪れる学生も多数いる。「わあ、畳だ！」という声がうれしい。
- ・リラックスして学習ができるため、図書館での滞在時間も長くなっていること。

今後の課題は…？

- ・コミュニケーションが取れない不器用な学生が多くなってきている。図書館が学内での居場所となっていきたい。

伝えたいこと

- ・学生たちにリラックスして学習ができる空間を提供できることは大変嬉しく思いますが、リラックスすぎる学生もいるため、呼びかけを行っています。学生たちにルールを守って利用することの大切さについての啓発活動が続けて行っていくことでしょうか…。



空間

学生

教員

他部署



芝浦工業大学豊洲図書館 和室閲覧室



豊洲キャンパス

学生数 8,399名 (大学全体)

館員数 専従2名

蔵書数 約270,000冊 (大学全体)

所在地 東京都江東区豊洲3-7-5

TEL 03-5859-7460

[数値：2013年5月現在]

内容

予約不要のグループ学習室として開放している。元々工学部はグループ学習が多く、また、起こし絵と呼ばれる資料や図面、大型資料を広げて見るためのスペースとして使用されている。

「場の提供」ということで、一つの場所を図書館閲覧室、グループ学習室、学園祭や国際推進課と連携したお茶会、各種イベント会場として使用している。留学生からの人気も高い。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2006年4月（開館当初）～

実施場所：図書館内

担当職員数：管理職1名、一般職1名

きっかけ

発案者：図書館

新館移転計画に伴う図書館計画による。「茶室おこし絵図集」など、ある程度の広さをもった巻物資料などを閲覧する場として畳の場が相応しいという

図書館利用者からの声を、建築家へ要望を出した結果、建築家と意見が一致し設置に至る。

図書館からの希望は和室で畳の閲覧室を考えていたが、建築家からは茶室を提案された。室内には展示コーナー、通路側にも面しており、図書館からの希望も考慮された結果、現在の形となった。

開始にあたって

広報：学内印刷物への記事掲載

費用：新館移転計画予算

苦労したこと・工夫したこと

- ・普段はグループ学習室として利用されているが、学園祭での学生茶道部への貸出は、毎年、水回りがあるので、貸出手続きに基づき、施設担当部署と連携して進めている。
- ・お茶会は来場者から好評なイベントとなっており、ガラス張りになっているため、イベント開催は広報活動にもつながっている。

始めてよかったと思うこと

- ・本学の学生は、地方からの一人暮らしが多いが、

量のあるアパート暮らしが少なく、量の空間は、「大変和む」と好評を得ている。

- ・グループ学習室として開館時間中は利用手続きなしで利用できるため、学年問わず利用されている。
- ・茶室のある図書館として、図書館広報につながった。キャンパスの建物が近代建築であり、その中に茶室という和の空間が国際交流で訪れた来館者に人気が高い。
- ・茶室があるおかげで、学生サークルのお茶会の会場となり、学生と図書館員の会話の機会が増えた。

今後の課題は…？

- ・現在は地域の小学生の見学などに留まっているため、小さなイベントとして、卒業生など複数人が講演する機会を作りたい。

伝えたいこと

- ・各図書館で図書館の満足度調査に記載される要望や、図書館利用者と図書館員が図書館ノートなど利用しコミュニケーションをとること、根拠となるものを図書館として発信できるように準備すること、日々の図書館利用者の図書館での利用行動など、図書館員が観察することが大切です。



空間

学生

教員

他部署

創価大学中央図書館 飲食可能なブラウジングルーム



学生数 8,424名
館員数 専従6名、非常勤・臨時10.2名
蔵書数 1,084,000冊
所在地 東京都八王子市丹木町1-236
TEL 042-691-3191

内容

中央図書館2階のブラウジングルームは、教養雑誌を配架しており、ゆったりとしたソファなどでブラウジングすることができる施設。飲食・会話・携帯電話の使用等を許可している。室内には清涼飲料水や軽食（パン・お菓子等）の自動販売機もあり、学生はここで自由に食事や会話ができる。

館内資料の持ち込みも禁止していないため、館内の資料を貸出せずにそのまま持ち込んで、学習することもできる。

コイン式コピー機・無線LAN・ノートPCなど持込電子機器用コンセント・可動式ホワイトボード（マーカー・イレイザー付）を設置している。3台のCD試聴機（1台につき3枚のアルバム）が、足置き付きのリクライニングチェア3台とともに設置しており、音楽を聴きながら、中には午睡をとっている利用者もいる。

読書に関する講演会（読書運動の一環）や、ピブリオバトルの学内予選なども、この部屋の一部を使

用して開催している。

飲食可能ということで、食べ物カスなどによる匂い防止の為、床をカーペットからタイルに替え、ブラズマクラスターイオン式の空気清浄機を設置している。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：1996年3月～

実施場所：中央図書館2階ブラウジングルーム

担当職員数：1名

きっかけ

発案者：図書館事務局

大型増改築の際に設置。当時「利用者のための図書館」を目指して様々なサービス改善を企画・実行していた。

開始にあたって

準備の概要：

- ・増改築のための設計
- ・サービス内容の企画

広報：学内印刷物への記事掲載

費用・用途：増改築に含まれるため当初の費用は不明であるが、普段の費用は教養雑誌の購読料（新聞雑誌費）やCD 試聴機に設置する音楽CDの購入費（図書費）がかかる程度。ブラウジングルームのみの予算としては計上していない。

苦勞したこと・工夫したこと

- ・ゆったりとくつろげる空間にとのことで、大型のソファや2人掛け・3人掛けのソファ・ベンチシート・リクライニングチェア（足置き付き）などの家具を設置したこと。
- ・CD 試聴機3台には、新入荷の新譜音楽CDを3枚ずつ設置し、学生にくつろぎながら音楽を楽しんでもらっていること。
- ・汚れや匂いがこもるため、床の部材を替えたり、空気清浄機を設置したこと。

始めてよかったと思うこと

- ・近年指向されている滞在型図書館の機能を1995年から有しているため、図書館スタッフはその良さがあまり分らなかったが、来館する他大学の見学者から高評価をいただいている。特に、貸出をせずに館内の資料を使用できること、館内に飲食可能なスペースがあることなどが良いとの感想が寄せられることが多い。
- ・グループ学習にも適した設備を有しているので、ラーニング・コモンズの一部の機能も有した設備となっている（学習相談など人的サービスは行っていない）。
- ・天井が2階分吹き抜けで、開放感が抜群であり、長期休業期間中もこの施設の利用者が多い。

今後の課題は…？

- ・汚れや匂いの対策が重要（カーペットからタイルに床材を取り換えたり、空気清浄機を設置しているがまだ不十分）。
- ・室内での会話の勢いが止まらず、そのまま室外に出る利用者が多い点が課題である。

伝えたいこと

- ・貸出をしなくても飲食ができるスペースが館内にあるのは非常に貴重です。
- ・また、ラーニング・コモンズと差別化するために、リフレッシュルームなど名称を考えた方がいいと思います。
- ・空気清浄機と床材の選定は慎重に。清掃業者や自販機業者と綿密に打ち合わせをして、清潔さを保つことが重要です。

高松大学附属図書館 飲食可能「ホットコーナー」



学生数 720名
館員数 専従2名、非常勤・臨時2.5名
蔵書数 129,000冊
所在地 香川県高松市春日町960
TEL 087-841-2167

内容

2009年度の『図書館における可能な学習支援』事業計画案の一つとして、長時間利用する学生の増加への対応と夏季の水分補給の必要性を考慮して、飲み物を飲んでもよい休憩場所を館内に作ることを計画した。

- ① 図書館内が狭く、自販機などを備えたドリンクコーナーやカフェなどを新しく設置する場所がない。
- ② 館内への飲食物の持込みは可能とするが、机の上には飲食物を置かないようにさせる。
- ③ 2階の閲覧室においては、新聞閲覧台の奥のスペースに丸椅子を置き、3階の閲覧室は、旧「グループ学習室」を模様替えて、窓際に机と丸椅子を置き、飲食可能な場所をつくる。『ホットコーナー』として休憩をしたり、飲食可能な、一息つけるスペースとして利用させる。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2009年9月～
実施場所：2階閲覧室及び3階閲覧室

担当職員数：0名

きっかけ

発案者：図書館

長時間図書館を利用する学生が増加したこと。気温が高くなると、飲み物を持ったまま図書館に来る学生が多い。特に夏季は健康面からも飲み物を持ったままで入館しないように指導することが難しい。館内は飲食禁止なので、飲み物を持ち込んだ場合、閲覧室などで隠れて飲もうとするために机や床の絨毯に零して、汚くなる。また、資料を汚す心配もある。館内が狭く、閲覧室外で飲食可能な場所やカフェを設けたり、自動販売機を設置する場所がない。

開始にあたって

準備期間：約5ヶ月
準備の概要：図書館内で最も他の利用者の迷惑にならない場所で、資料の並んだ書架・閲覧机など資料から離れた場所を確保する。
広報：掲示物（館内）・図書館ホームページ・学内印刷物への記事掲載
費用：0円

苦労したこと・工夫したこと

館内がとても狭く、他の利用者の迷惑にならないような場所を確保することが難しかった。ホワイトボードやアクリルパネルなどで遮り、植物などを配置して、リラックスできる空間を作った。

始めてよかったと思うこと

館内で飲み物を飲んでいる利用者に『ホットコーナー』を利用するように注意することで、閲覧室内での飲食が減った。

今後の課題は…？

利用者への周知を徹底し、飲食する場合は飲食コーナーを利用するように習慣づけること。

伝えたいこと

利用者が飲み物を館内への持ち込み際の制限が難しい。水筒・ペットボトルなど栓ができるものは良いが、紙パックの飲み物などの持ち込みをどうするか。本学ではストローを差し込んだ紙パックの利用者が多いため利用者の持込の制限ができない。



東海学院大学・東海学院大学短期大学部附属図書館 昼食時間帯に飲食可能な施設（BGMあり）



学生数 1,378名

館員数 専従2名、非常勤2名 [2013年5月1日現在]

蔵書数 238,000冊

所在地 岐阜県各務原市那加桐野町5-68

T E L 058-389-2969

内容

図書館1階にある大ホールは、ホテルのラウンジのような豊かな空間で、応接セットを配置し、集い、語り、ゆったりとくつろぐことができる。

大ホールのみは飲食可能なスペースとして利用者に提供しており、昼食時間帯にはBGMを流している。音響設備も充実しており、大理石で造られたステージもあり、学生の卒業制作展、演劇発表ほか各種イベント等が可能な多目的施設となっている。

概要

対象者：すべての利用者

実施場所：図書館1階大ホール

担当職員数：2名

きっかけ

発案者：図書館

学生より図書館内で飲食を希望する声が多数あったこと、学食スペースに限度があることなどから、1階の大ホールのみは自由開放とした。また、せつ

かくの施設を快適に利用してもらうために、図書館職員の発想で、昼食時間帯限定（平日のみ）でBGMを流すことになった。

開始にあたって

準備期間：約1ヶ月

準備の概要：初等教育学科音楽コースが過去にあり、CDは720点ほど所有しており、ミキサー室の音響設備も整っていたため、特別準備するものはなく実施することができた。

広報：掲示物（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、図書館HP、学内印刷物への記事掲載

費用：0円

苦勞したこと・工夫したこと

- ・月曜日～金曜日までの5日間、変化に富んだBGMを流している。例えば、クラシック・映画音楽・ポップスなど日替わりで提供している。クリスマスシーズンはそれに因んだCDをかけて楽しんでもらっている。

始めてよかったと思うこと

- ・学生アンケートにおける質問項目で、居心地の良さ、休み時間によく利用する場所などの上位に、毎年図書館が入っている。
- ・近年読書離れが問題となっているが、まず図書館に足を運ばせるところから始めた点では成功していると思う。
- ・館内に入れば、各種掲示物を見て3、4階閲覧室まで上がってくれることもあり、自動的に利用率も上がっている。

伝えたいこと

本学図書館は、1994(平成6)年、大学と短大部の共用図書館として開館した。21世紀を見据え、従来の図書館のイメージを一新すべく、「集う」「語らう」「学ぶ」をキーワードにしたコンセプトに基づき運営している。図書館内には利用目的別に各種施設がある。図書館1階にある大ホールは、静粛に使用する閲覧室とは区別し、学生、教職員、学外者に自由に利用してもらえる空間づくりを心掛けることとし、サービスの一環として昼食時間帯にBGMを流している。今後も可能な範囲内で、利用者の意見に対して前向きに対応し、固定観念にとらわれない運営を進めていく方針である。

空間

学生

教員

他部署



北海道大学附属図書館 くつろぎの空間メディアコート



学生数 18,043名[平成25年5月1日現在]
館員数 専従85名、非常勤・臨時27名
[平成25年4月1日現在]
蔵書数 3,831,786冊[平成25年3月31日現在]
所在地 北海道札幌市北区北8条西5丁目
TEL 011-706-4998

内容

飲食可能な憩いのスペースとして利用者に開放している。

各種イベント（ビブリオバトル、北大出身作家のパネル展示、EUフレンドシップミュージックウィーク等）会場として活用している。

概要

対象者：すべての利用者

開始時期：2012年4月～

実施場所：図書館内メディアコート

きっかけ

発案者：図書館再生事業の一環

法令上不適合な6層の積層書庫（室内面積770㎡、高さ25m）を解体して生まれた広大なスペースの有効利用を考慮した。

開始にあたって

準備期間：図書館再生事業（平成21～23年度）の一環

準備の概要：図書館再生事業の一環

広報：

- ・図書館HP
- ・facebook
- ・学内印刷物への記事掲載

費用：図書館再生事業の一環

苦労したこと・工夫したこと

- ・広大なスペースなので自然採光やLEDの採用、床暖房を設置するなど、省エネを意識した設計を考えた。

始めてよかったと思うこと

- ・ 飲食が可能なので利用者にとって利便性の高いスペースとなっている。
- ・ 夏は屋根からの自然採光で明るく、憩いのスペースとして活用されている。
- ・ 広大なスペースであるので各種イベントに活用出来る。

今後の課題は…？

- ・ スペースが広いので冬季の室内環境を維持するのに少々不安がある。
- ・ 通常利用はもちろんのこと、各種イベントなどを計画して利用を促進したい。

伝えたいこと

- ・ 偶然に生まれた空間で、どのような使われ方をするのか未知数でしたが、予想以上におもしろい空間となり、多様な使われ方をしています。ただ冬季の室内温度については想定外でした。



空間

学生

教員

他部署



室蘭工業大学附属図書館 ゾーニング及び飲食ルール

図書館 飲食ルール

キャップの
ついている容器に
入っている飲み物



学生数 3,359名
館員数 専従7名、非常勤・臨時5.8名
蔵書数 323,000冊
所在地 北海道室蘭市水元町27-1
TEL 0143-46-5187

内容

ゾーニング（利用マナー）：

1F 閲覧席及びパソコンエリアはグループ学習エリアで他の利用者に迷惑にならない程度に学習に関する会話OK。2F 閲覧席は、個人学習エリアで会話禁止。2F 閲覧席内に一部サイレントエリア（全ての音の出る利用（電気機器等）も禁止）。

ゾーニング（飲食）：

（閲覧席及びグループ学習室）

- ・ペットボトル等のふた付き飲み物可。
- ・一口サイズのお菓子可（あめ、ガム、フリスク、グミ、チョコなど）。
- ・例え一口サイズでもクッキーやポテトチップスなど食べかすがこぼれる、食べると音がするようなタイプものは禁止。
- ・口に入れた以外のお菓子はカバンの中にしまっておき机の上には出しておかない。
- ・歩きながらの飲食は禁止。

（談話室）

- ・軽食可（おにぎり、パン、サンドウィッチに限る）、

それ以外の弁当類、汁もの、アイス、生もの等は禁止。

・缶ジュースなどふた付きでない飲み物も可。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2012年10月～

実施場所：図書館内

担当職員数：3名

きっかけ

発案者：図書・学術情報室 運用ユニット

- ・ゾーニング（利用マナー）：グループで討議しながら学習する学生が増加し、静かにするよう注意することは逆に自主的学習の妨げになると考え、1Fと2Fでゾーニングした。
- ・飲食ルール：以前からペットボトル等のふた付き飲み物は許可していたが、許可していないお菓子をこっそり食べている利用者は少なくなかった。禁止行為なので職員が見回って繰り返し注意しなければならないことは、注意する側も利用者の

側も不快な上に禁止しても減らない。以前の全ての飲食禁止からペットボトル飲料可能としたことから考えて、一口サイズの菓子を認めても、不快に思う人がほとんどなく、かつ勉強する際の個々人の集中力の維持の方法の選択肢を増やすことにもなると考えてサービスを開始した。

開始にあたって

準備の概要：利用者向け周知のみ。

広報：掲示物（館内）、デジタルサイネージ（館内）、

図書館HP、Facebook、twitter

費用：0円

苦労したこと・工夫したこと

- ・食べることを認めることについての不安は大きかった。

始めてよかったと思うこと

- ・ゾーニング（利用マナー）：細かな問題はあるものの、ゾーニングは上手くいっている。1Fに良く使われる理工系の図書等が配架され、情報メディア教育センターの端末があることから、学生の利用率が高く、活発なグループ学習が行われており、賑やかな空間となっている。2Fは人文社会科学系の図書が配架され、個人で学習する利用者が多く、静かな空間を保っている。利用者は、必要に応じて1Fと2Fを使い分けているようだ。
- ・飲食ルール：サービス導入後、アンケート調査など実施していないので利用者の満足度はわからないが、ルールの範囲内でちょっとした甘いものを食べて良いことは、今まで我慢していた人、罪の意識を感じながら隠れてこっそり食べていた人にとっては、ストレスにならず良いと考える。

今後の課題は…？

- ・飲食ルール：現在の一口サイズの菓子、軽食の定義を守り切れるか。（おにぎりは可でどうして納豆巻きは不可なのか、ポッキーは一口サイズの菓子に入るのか、などいろいろな質問に対応するのが難しい。）

伝えたいこと

- ・飲食ルール：サービス実施後に利用者マナーが特別悪化したというようなことは感じられないので、本学では現状を維持している。ただし、小規模でも一旦、飲食を認めるとマナーがより悪くなったからと言って中止するのも難しいので、大学内の飲食可能な場所の整備状況なども併せて慎重に考えると良いと思う。

空間

学生

教員

他部署

室蘭工業大学附属図書館 各種グッズの貸出



学生数 3,359名
館員数 専従7名、非常勤・臨時5.8名
蔵書数 323,000冊
所在地 北海道室蘭市水元町27-1
TEL 0143-46-5187

内容

学習用品及び滞在快適グッズの館内貸出

- ・主な貸出用の学習用品（各種サイズの定規、角度器、自在定規、コンパス、テンプレート、ステイックのり、ホチキス、ホチキス（大：120枚まで綴じ可能）、ホチキス針はずし、修正液、ゼロハンテープ、はさみ、カッター、カッターマット、サインペン、カードリーダー、関数電卓、朱肉）
- ・主な貸出快適グッズ（うちわ、かご、ひざかけ）
- ・傘（館外貸出）
- ・その他（ノートパソコン、iPad、プロジェクタ、簡易ホワイトボード）

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2011年10月～
実施場所：図書館内
担当職員数：はさみ等をカウンターで貸出す以外はセルフサービス

きっかけ

発案者：図書・学術情報室 運用ユニット

文房具などは「〇〇はありますか」とカウンターへの問合せが多く、図書館に置いてあると学生にとって便利に思われるため。快適グッズについては、エアコンがない、暖房通気期間外の季節の変わり目の寒い日等、少しでも快適に自習できるようにとの配慮から始めた。

開始にあたって

準備の概要：物品の購入
広報：掲示物（館内）、デジタルサイネージ（館内）、図書館HP、Facebook、twitter
費用：7万円程度
（上記「学習用品」及び「滞在快適グッズ」購入分。その他は含まない。）

始めてよかったと思うこと

- ・自由貸出物品は、カウンター端に置いてあり、そこで作業もできるようにしているが、課題提出の

ためか一生懸命作業しているのを見ると役立つ
ていることがよくわかる。

- ・あたりまえのことではあるが、窓口貸出物品（は
さみなど）は、「〇〇を貸してください。」「はい
どうぞ、終わったらカウンターへ返して下さい
ね。」「ありがとうございました。」など、学生と
職員間のちょっとしたコミュニケーションが図
書館への信頼感につながるかも知れない。
- ・スティックのりなどは、しばらく不在になってい
てもいつのまにか戻ってきている。また、貸出用
傘も貸出簿に学生番号・氏名を記入するようにな
ってから、後日返却に来てくれる。「飲食ルール」
もそうだが、学生を信頼し、大人として接するこ
とにより、相手も大人としてふるまってくれるの
ではないかと感じている。

今後の課題は…？

- ・消耗品なので、買い替えが必要であり、支出予算
を伴う。

伝えたいこと

物品貸出ランキング トップ3

- 1位 ホチキス
- 2位 のり
- 3位 はさみ

明治大学和泉図書館 館内のゾーニング



和泉キャンパス

学生数 10,000名 [2013年4月30日現在]

館員数 専従6名

蔵書数 323,000冊 [2012年3月31日現在]

所在地 東京都杉並区永福1丁目9-1

T E L 03-5300-1186

内容

ハード面：

音のゾーニング

①図書館入口から奥に向かって音のグラデーション

②図書館下層部から上層部に向かって音のゾーニング。

①②をガラス材で処理。外装は low-e ガラス (3層ガラス)、内装は天井・壁面木ルーバー内にガラスウールを配置。1階(情報リテラシー室) 2階(コミュニケーション・ラウンジ) は幅厚ガラスで閲覧エリアと遮音。外階段から1階~4階閲覧エリアへは前室を設けて2重ドア設置。

1階2階は Active study area (活動的空間)、3階は Quiet study area (静寂な空間、PC可)、4階は Silent study area(極上の静けさ、PC不可)。

カラーリング

③床・書架の色調

④閲覧席・椅子の形状

③は1階から4階に向かって色調が深みを増す。

④は1階2階がカジュアルな形状、軽やかなツール配置。3階4階が窓周りはオープン席・雁行型席。内側席はクローバー型や矢羽根型、風車型そして卍型に仕切った閉ざされた空間。

ソフト面(すなわちサービス=おもてなし)：

グループで活発に活動するエリアと、ややトーンダウンのエリア、さらに「個」を重んじるエリアの演出で、イベント型のサービスが拡大した。またレポートの書き方支援に代表されるように、一對一のサービスが充実した。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2012年5月~

実施場所：全館

担当職員数：専任6名 嘱託1名

業務委託 昼間 8名；夜間 7名

ゾーニングによって達成できたイベント：

- ・図書館ホール：各種イベント、授業。
- ・ギャラリー：企画展示。
- ・エントランス：七夕祭り。
- ・特設コーナー：おすすめ本。
- ・情報リテラシー室：図書館リテラシー教育（基礎演習、教養演習、ゼミナール）4カ月で211回実施（90分1回）。
- ・コミュニケーション・ラウンジ：ブック・シェア・トーク（本好き仲間の交流）、留学生との交流。

きっかけ

発案者：ゾーニングは図書館建設関係の委員会、イベントは和泉図書館事務室
イベントは毎朝の朝礼や日常会話で発案。

開始にあたって

準備期間：約1年8ヶ月以上前から
準備の概要：ゾーニングはサービスのための前提である。

苦労したこと・工夫したこと

ゾーニングでは苦労は無い。

始めてよかったと思うこと

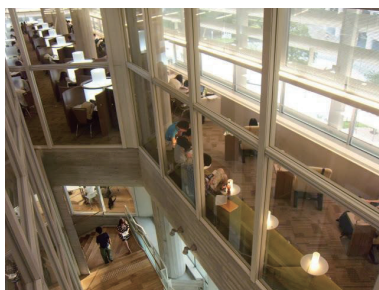
図書館を居心地の良い場所とするには、ゾーニングしかない。

伝えたいこと

サービスとは提供するものではなく生み出すものであり、学生の活動を支援するのがサービスの一つのありかたです。



ガラス材による遮音



階段部分とのゾーニング



クローバー型の座席

和光大学附属梅根記念図書・情報館 イートインスペース



学生数 3,195名
館員数 専従11名、非常勤・臨時4.8名
蔵書数 500,000冊
所在地 東京都町田市金井町2160
TEL 044-989-7494

内容

館内に飲食可能なスペースを設置。

概要

対象者：すべての利用者

実施期間：2009年9月～

実施場所：図書・情報館3階（入口、メインカウンターがあるフロア）。同フロアは、「コミュニケーション・ゾーン」として、資料・情報・サービス・PC環境の総合的な利用の場、学生、教員、図書・情報館の活発な交流の場、更にはくつろぎの場としての機能を併せ持つ、創造的で知的なコミュニケーション・学習のための共有空間となっている。

担当職員数：0名

（特定の担当者があるわけではない）

きっかけ

発案者：図書館施設・設備検討委員会（図書館部署内ワーキンググループ）

「10年後を視野に、図書館の施設・設備についての基本方針を考える」ことを目的に発足した当該ワ

ーキンググループの検討の中で実現したものを。

近年、大学図書館が果たす役割が、勉学面だけでなくトータルに学生生活を支援していくことに変遷しているという状況を受け、「大学生生活の一機能として位置づく滞在型図書館」を目指そうということになった。

イートインスペースは勉学の合間のくつろぎの場として、また、館内における飲食ルールの徹底を促す施設として設置することとした。

開始にあたって

準備期間：約18ヶ月

準備の概要：

- ・設置スペースの検討（フロア、広さ、導線など）
 - ・設備内容の検討（什器、自動販売機など）
 - ・設置後の利用ルール策定およびそのサイン作成
- 広報：掲示（館内・館外）、チラシ（館内・館外）、デジタルサイネージ（館内・館外）、図書館HP、教職員向けには、学内の会議等を通じて周知
費用・用途：什器、設置作業費、サイン看板等

苦勞したこと・工夫したこと

準備自体はさほど大変ではなかったが、館内の施設・設備全体の再配置・見直しをとまなう作業だったため、一大プロジェクトとしての大変さがあった。

始めてよかったと思うこと

- ・特に休日開館の日など、学内の食堂や売店がすべて閉まっている時でも、利用者が食事を持ち込むことができ、長時間利用できるようになったこと。
- ・通常の利用だけでは図書館に足を向けない利用者層を取り込むきっかけになっていること。
- ・学内に一人でも食事をとりやすいスペース（居場所）ができたこと。
- ・館内で飲食している利用者に対して、単に注意するだけでなく、飲食可能スペースへ誘導することができるようになったこと。

今後の課題は…？

（今後改善する予定等はまったくないが）検討段階では、いわゆるカフェのような、もっとコーヒーの香りが漂うような空間を妄想していた。現実的には、自動販売機が精いっぱいだった。

伝えたいこと

イートインスペースは壁で仕切られている（飲食可能スペースであることを識別するため、また、飲食物のにおい対策のため）が、空調の冷暖気の流れもせき止められてしまうため、特に冷房が効かないということに事後に気が付きました。

現在は改修されましたが、既設後に変更が生じないように準備することをおすすめします。

九州看護福祉大学附属図書館 喫茶スペース



学生数 1,601名
館員数 専従3名、非常勤・臨時2名
蔵書数 41,000冊
所在地 熊本県玉名市富尾888
TEL 0968-75-1840

内容

館内に水分補給できるスペースを設けた。自販機・給水器の設置はない。臭い問題があり、現在のところ食べ物は許可していない。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2012年10月～
実施場所：図書館1F
担当職員数：特になし

きっかけ

発案者：図書課（他課から異動してきた職員）

- ① 毎年実施している図書館利用アンケートの自由記載欄に希望が寄せられたため。
- ② 夏季節電実施で冷房温度が28度に設定されており、熱中症予防のため。

開始にあたって

準備期間：約1ヶ月
準備の概要：ラインテープによるゾーニング、

丸テーブル2卓、椅子7脚、看板（イーゼル）、メニュー立ての設置
広報：掲示物（館内外）、学内印刷物への記事掲載
費用：0円

苦労したこと・工夫したこと

既存の物品で対応したが、カフェの様なお洒落な雰囲気を出すため、明るい窓際に設置したり、イーゼル（看板）やメニュー立てにスペースの案内・注意事項を表示したり（オープンカフェのイメージ）と色々工夫した。

始めてよかったと思うこと

スペースの利用が多く、学生がゆったりくつろいで談笑している様子を見ると良かったと思う。

今後の課題は…？

現在は飲料のみとしているが、軽食等、利用範囲をどこまで広げられるかが今後の課題。

伝えたいこと

ちょっとした行動力です。



成蹊大学図書館 飲食可能なリフレッシュエリア

学生数 8,380名
 館員数 専従11名、非常勤・臨時29名
 蔵書数 1,282,000冊
 所在地 東京都武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
 TEL 0422-37-3545

内容

図書館の入館ゲートの外に設置された、館内で借りた図書を読んだり、飲食することができるリフレッシュエリア。

概要

対象者：すべての利用者
 実施期間：2006年10月～
 実施場所：図書館入館ゲート外

きっかけ

発案者：成蹊学園
 新図書館開館と同時にサービス開始。

始めてよかったと思うこと

- ・図書館内の飲食・通話等可能なエリアを明確に区分けできたこと。

今後の課題は…？

- ・リフレッシュエリアと1階入館ゲートが直結して

いるため、自動ドアが開くたびにリフレッシュエリア内の騒音と食べ物のおいが閲覧室に流れ込んでくる点が懸念事項である。

伝えたいこと

- ・前述同様（騒音と食べ物のおいが流れ込んでくること）にならぬようリフレッシュエリアの設置場所は重要だと思います。



[成蹊大学図書館正面]

広島修道大学図書館 コーヒーラウンジ



学生数 6,183名
館員数 専従16名、非常勤・臨時12.2名
蔵書数 800,000冊
所在地 広島県広島市安佐南区大塚東1-1-1
TEL 082-830-1112

内容

2002年9月の新図書館開設時にコーヒーラウンジを館内に設置。

概要

対象者：すべての利用者
実施期間：2002年9月～
実施場所：図書館1階

きっかけ

発案者：図書館

ヨーロッパ圏の図書館のイメージで、図書館の中で休憩できる場所を提供したいという想いから提案。

開始にあたって

準備の概要：

- ・設計時に希望を提出
- ・営業可能な業者の選定

苦勞したこと・工夫したこと

- ・図書館の建設が決まった時に、図書館員の意見を取り入れていただくようお願いし、コンペティションから参画した。

始めてよかったと思うこと

- ・勉強の息抜き、ランチ、学外者の方との面談など様々な用途で利用され、当初、予想していたよりも評判が良い。

伝えたいこと

今では当たり前のように図書館とカフェがセットで建設されているが、当時、図書館内にカフェを併設することには、異論もあった。時代のニーズ、利用者、図書館員が望んでいることは、できる限り、実現させてみる必要があるのかもしれない。

隣は2013年4月に開設したラーニング・コモンズ。



学生数 2,630名
 館員数 専従1名、兼務3名
 蔵書数 233,000冊
 所在地 千葉県市川市国府台2-3-1
 TEL 047-371-1126

内容

ひとりで勉強するキャレル（個人用席）と違い、ゆったりとしたくつろぎの空間を演出し、足を伸ばして利用できるコーナー。

概要

対象者：すべての利用者
 実施期間：2004年9月～
 実施場所：メディアセンター6階南フロア
 担当職員数：0名（特別な担当者はいない）

きっかけ

発案者：西館建築プロジェクトチーム
 西館（メディアセンターを含む建物）建設時のコンセプトにより、学生がくつろいで資料を閲覧できるスペースとして設置。

開始にあたって

準備の概要：西館建設時に、すでに和室閲覧室を設置している他大学へ施設見学に行き、参考にした。
 広報：学内印刷物への記事掲載

始めてよかったと思うこと

- ・畳の閲覧席を設けていること自体が珍しく思われ

るようで、見学者などをお連れしたときに好意的な意見をいただくことができています。

- ・学生は非常にリラックスして利用しているように見受けられる。

今後の課題は…？

- ・くつろいで資料を閲覧するというコンセプト通りに小説などの読みやすい資料を配架していたが、「靴を脱いで畳に上がらないと奥の資料が利用できないので不便である」などの意見があり、現在利用度の少ない資料を配架している。
- ・くつろぎすぎてしまい、畳に寝転がっている利用者なども時折見られ、対応に苦慮する場面もある。
- ・ゆとりあるくつろぎスペースというコンセプトを生かした、配架資料の選び直しや利用マナーの向上が今後の課題であると考えている。

伝えたいこと

靴を脱いで利用できる、靴を脱がないと利用できないというのは、利用者の捉え方によりメリットにもデメリットにもなると思われます。本学の場合は靴を脱いでくつろげるコーナーとして設けているスペースですが、いちいち靴を脱がなければ奥の棚の資料がとれないという不便さも利用者から指摘されています。